流人の話

登場人物

流人

ナレーター

◆ある時、同心が嬉しそうな顔をしている流人を乗せる。
◆ナレーター、流人

流人を大阪へ渡さるに、高瀬より船にて、町奉行の同心　これを守護して下る事なり。凡そ流人は前にも記す如く、賊の類は希にして、多くは親妻子もてる平人の辜に遇へるなり。

罪科決して　島へ遣はさるる節、牢屋敷に於て、親戚の者を呼出し引き合せて、暇乞いをさせらるる定法なり。故に　親戚　長別して旧里を出づる道途なれば、己がどち、船中にて夜と倶に越方行末の事を悔いて　愁涙悲嘆して、かきくどくを、守護の同心終夜聞くにつけ、哀傷起こり、心を痛ましむる事なるに、

或る時　一人の流人、公命を　承ると否、世に嬉しげに、船へ乗りても　いささか愁える色見えず。守護の同心　是を見て、卑賤の者ながら　よく覚悟せり　と感心して、船中にて彼の者に対して称嘆するに、彼云はく、

流人　「常に僅かの営みに、渇々粥を啜りて、露命をつなぎしに、此の御吟味に逢ひ候うてより、久々　在牢の内、結構なる御養いを戴き、いたずらに遊び暮し冥加なき上に、剰へ此の度　鳥目二百文を下されて［割註　流人に鳥目二百銅ずつ賜わる事、古來より定例なり］、島へ遣わさる事、如何なる果報にて　此くの如くなりや。是れ迄　二百文の銭をかため持たる事、生涯に覚え申さず。加程過分の元手之れ有り候えば、たとえ鬼有る島なりとも、一つ身の凌ぎはいか様にも出来申すべく候。素より妻子親類とてもなく、苦しき世をわたり兼ね候えば、都に名残は更になく候」

とて、悦ぶ事限りなし、

此の者、西陣高機の空引に傭はれありきし者なるが、其の罪蹟は、兄弟の者、同じく其の日を過ごし兼ね、貧困に迫りて自害をしかかり、死に兼ね居けるを、此の者見付けて、迚も助かるまじき体なれば、苦痛をさせんよりはと、手伝いて殺しぬる、其の科に仍り、島へ遣わさるるなりけらし。其の所行もとも悪心なく、下愚の者の弁えなき仕業なる事、吟味の上にて明白なりしまま、死罪一等を宥められしものなりとぞ。

彼の守護の同心の物語なり。

〈完〉

Podcast ののラジオ　好評配信中！

視聴・購読はこちらから
https://gekidannono.com

ご意見・ご感想はこちらへ
radio@gekidannono.com

劇団ののでは、名作文学を声に出して演技し、収録した音声を Web 上で配信しています。複数名で読むラジオドラマタイプ、単独で読む朗読タイプなど、様々な形で朗読をしています。
みなさんも一緒に朗読を体験して楽しんでいただけるよう、本文に出てくる言葉や物語の解説も、公式サイト上で公開しています。
いつか国語の教科書で読んだ気がする、芥川龍之介・宮沢賢治・夢野久作などのあの作品やこの作品、ぜひ、役者の声でお楽しみください。

劇団ののと読む名作文学　神沢杜口『翁草』「流人の話」Podcast 版

発行日　令和 7 年 1 月 12 日
編　集　劇団のの
発　行　劇団のの
https://gekidannono.com/
radio@gekidannono.com

※本文は、国立国会図書館デジタルコレクション所蔵の原文を加工したものです。
底　本　神澤貞幹編『校訂　翁草　第十二』五車樓書店（明治 38 年）
初　出　1905（明治 38）年
国立国会図書館デジタルコレクション
https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/772579/1/1
参　考　小さな資料室
http://sybrma.sakura.ne.jp/478okinagusa.runin.html